

第6章

鳥取県進学校における指定校推薦希望者の特徴

遠藤 健

【ポイント】

- 私立指定校推薦を希望する生徒は、高校生活3年間を通して、教師や保護者との距離感が、非私立指定校と比べ近い。私立指定校推薦を希望する生徒は、高校1年生時点から教師にポジティブなイメージ（社会的評価や給与面）をもっている。
- 大学進学にあたって重視することとして、私立指定校推薦を希望する生徒は、大学の知名度や施設、就職支援といった点を重視しており、親は知名度がある学校であることを期待している。
- 高校3年間を通して私立指定校推薦を希望する生徒の学習時間は、「1時間未満」の割合が相対的に多く、特に3年生の5～7月時点で非私立指定校推薦と顕著に差が見られる。

1. 指定校推薦希望者を分析するにあたって

本章は、Wave3 までのデータを用いて、鳥取県の進学校に通う生徒のうち、私立大学の指定校推薦を希望する生徒の特徴を明らかにする。まず本節では、大学入試選抜方法のうち、指定校推薦はどのように位置づけられるのか、全体像を把握する。

周知のように、現在、大学入試選抜方法は多様化しており、2025 年度における大学入試の入学者のうち、一般選抜は 300,249 (46.3%)、総合型選抜は 126,766 (19.5%)、学校推薦型選抜 221,415 (34.1%) となっている (文部科学省 2025a)。このうち私立大学入学者のうち学校推薦型選抜が占める割合は 38.8%となっており、高校生にとっては進学先を検討する上で、充分に選択肢に入る選抜方法である。

この学校推薦型選抜は、「出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料としつつ、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価・判定する入試方法」(文部科学省 2025b) とされている。具体的に令和 8 年度の実施要綱 (文部科学省 2025c) に示されている「第 3 入試方法 1 (3) 学校推薦型選抜」(文部科学省 2025c: 2) について確認してみよう。

出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料としつつ、以下の点に留意して評価・判定する入試方法。なお、本選抜については、入学志願者自らの意志のみで出願できるものではなく、特定の大学・学部等で教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性等を有する入学志願者を高等学校長が判断するものであることから、推薦要件を可能な限り具体的に設定し、募集要項等により示さなければならない。

①大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等も適切に評価するため、高等学校の学習成績の状況など調査書・推薦書等の出願書類だけではなく、第 6 の 1 から 4 に掲げる評価方法 (1. 教科・科目に係る個別テストの実施、2. 大学入学共通テストの利用、3. 小論文・面接・実技検査等の活用、4. 資格・検定試験等の成績の活用) (下線、筆者追加) のうち少なくともいずれか一つを必ず活用し、その旨を募集要項に記述する。ただし、第 6 の 1 を活用する場合は、第 4 の 2 に基づき実施すること。

②推薦書の中に、大学・学部等のアドミッション・ポリシーに対応する志願者本人の学習歴や活動歴を踏まえた学力の三要素に関する評価についての記載を求める。また、生徒の努力を要する点などその後の指導において特に配慮を要するものがあればその内容について記載を求める。推薦書のイメージ例は参考様式 1 のとおりとする。

次に、試験期日は、以下のように記されている (文部科学省 2025c: 3)。

学校推薦型選抜については、入学願書受付を令和 7 年 11 月 1 日以降とし、その判定結果を令和 7 年 12 月 1 日以降で一般選抜の試験期日の 10 日前まで (学校推薦型選抜で大学入学共通テストを活用する場合は前日までのなるべく早い期日) に発表する。

これらの実施要綱を踏まえ、大学や学部ごとの運用が多様になるが、たとえば早稲田大学の場合、学校推薦型選抜においては、①指定校推薦入試と②地域探究・貢献入試（北九州地域連携型推薦入試）を実施し、①では、学部ごとに決定した指定校の学校長に推薦される生徒が出願できる仕組みであり、大学入学共通テストの受験を課している（早稲田大学入学センターホームページ）。他の大学においては、面接試験を課すケースや資格試験の成績を活用するケースもあるが、評価方法も含めた全体の状況は、管見の限り明らかにされていない。

他方、文部科学省では先導的・大学改革推進委託事業委託として「大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究」を実施している（リベルタス・コンサルティング 2024）。この調査では、学校推薦型選抜を含む入試選抜全体の実態を把握するため、選抜方法を各大学（学部）に問うている。この調査は、2023年に国公立の大学・短期大学計1,072校を対象にし、回収数100.0%の調査である。この調査では、学校推薦型選抜の実態を把握するため、以下の4つを設定している。

- ①公募型：大学が定める出題要件を満たし、かつ、所属学校の推薦を得られれば、誰でも出願できる学校推薦型選抜
- ②附属高校：大学の附属高校
(大学と同一法人とする)の生徒のみが出願できる学校推薦型選抜
- ③指定校：大学が指定した学校の生徒のみが出願できる学校推薦型選抜（附属高校を除く）
- ④その他：上記以外の学校推薦型選抜

これらを学部ごとに集計したと思われる結果が、以下の図6—1である。

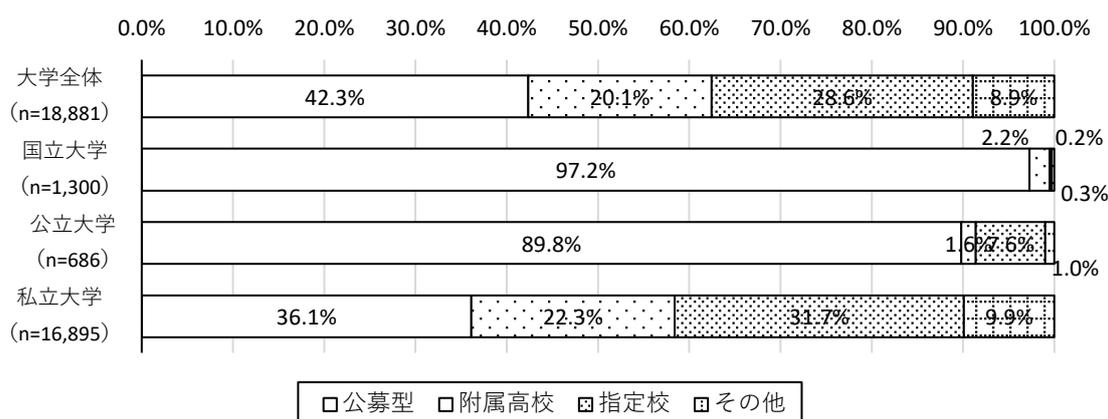


図6—1 学校推薦型選抜の種類（国公立・選抜区分数別）
 （出典：リベルタス・コンサルティング 2024：27より筆者作成）

この結果から私立大学は31.7%が指定校推薦を活用していることが分かり、先程の私立大学における学校推薦型選抜による進学者（221,415人）から推計すると、およそ7万人となる。両データの時点は一致していないので正確性に課題はあるものの、私立指定校推薦は、おそらく7万程度というのは実態に近い数字だろう。すなわち61万人程度の大学進学者のうち私立大学の指定校推薦は、11%程度いることになる。

以上、指定校推薦希望者を分析するにあたっての前提を整理してきた。次節以降では、今回の鳥取県の進学校において指定校推薦を希望する生徒の特徴を明らかにしていく。

2. 指定校推薦希望者の抽出

本節では、まず指定校推薦希望者の抽出手続きについて述べる。Wave3（以下、W3）のウェブ質問紙では以下の手順で指定校推薦希望者を抽出した。

1. 高卒後の進路希望が4年制大学の者
2. 受験校の設置形態で私立大学を含む者
3. 入試形態で指定校推薦を選択した者

では実際の抽出過程を示す。まず、今回、使用するデータのうち4年制大学進学希望者は全体の87.9%であった（図6—2）。

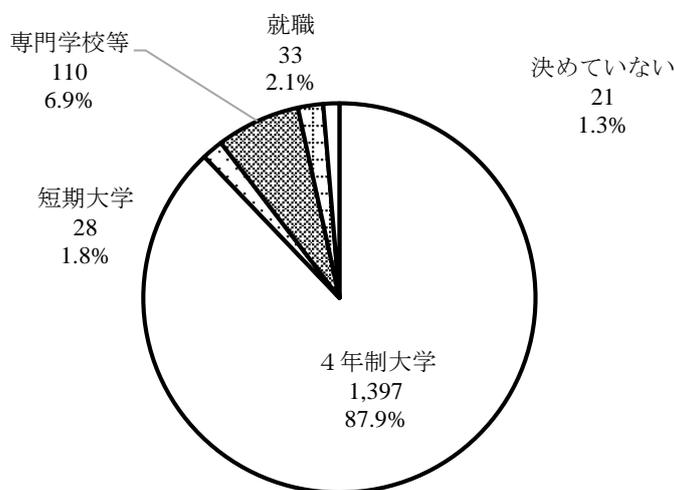


図6—2 高卒後の進路希望（単一選択）

次に、この4年制大学進学希望者のうち、受験を予定する大学の設置形態は図6—3のように分布した。38.1%は国公立のみを希望し、46.9%は国公立と私立の併願を希望し、15.0%は私立のみを希望していた。

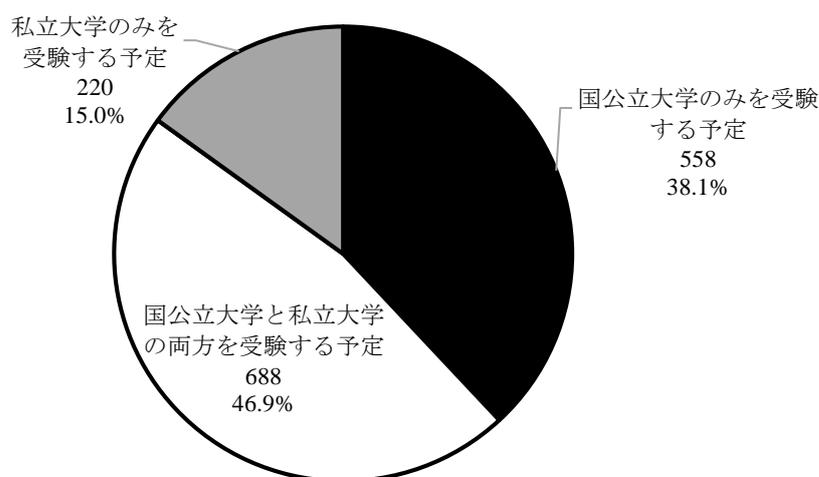


図6—3 国公立別受験希望（単一選択）

次に、国公立希望者（ $N=1,239$ ）に対して、入試選抜方法を尋ねた結果が表6—1である。89.2%が一般選抜（前期日程）を受験予定で、総合型選抜（共通テスト利用しない）は10.4%、学校推薦型選抜（共通テスト利用しない）は8.2%である。国公立受験希望者は、ほとんどが共通テストを受験予定である。

表6—1 国公立受験希望者のうち想定する入試選抜方法（複数選択可）

入試選抜方法（複数選択可）	度数	選択割合
国公立_総合型選抜（共通テスト利用する）	164	13.2%
国公立_総合型選抜（共通テスト利用しない）	129	10.4%
国公立_学校推薦型選抜（共通テスト利用する）	141	11.4%
国公立_学校推薦型選抜（共通テスト利用しない）	101	8.2%
国公立_一般選抜（前期日程）	1105	89.2%
国公立_一般選抜（中期日程）	186	15.0%
国公立_一般選抜（後期日程）	459	37.0%
国公立_わからない	71	5.7%

他方、私立希望者（ $N=897$ ）は、表6—2のように、一般選抜が60.8%であり、共通テスト利用（38.4%）、総合型選抜（19.2%）、指定校推薦（13.0%）が続く。このデータでは、多くの生徒が国公立を希望し、私立は共通テスト利用を想定している層が多い。私立のなかでも指定校推薦を希望するものは、私立も受験に選択肢に入れる層の中では13.0%であり、4年制大学を希望する生徒（ $N=1,397$ ）のなかでは、7.7%（ $N=107$ ）であった。

なおW3の調査は生徒たちが3年生である2025年5月から7月に行われているので、あくまでこの時点で指定校推薦を希望する生徒のデータである。

表6—2 私立受験希望者のうち想定する入試選抜方法（複数選択可）

入試選抜方法（複数選択可）	度数	選択割合
私立_指定校推薦	117	13.0%
私立_公募推薦	105	11.7%
私立_総合型選抜	172	19.2%
私立_一般選抜	545	60.8%
私立_共通テスト利用	344	38.4%
私立_わからない	155	17.3%

3. 私立指定校推薦希望者の特徴

前節では、今回利用するデータから私立指定校推薦希望者を抽出する手続き及び実態を記述した。本節では、4年制大学への進学を希望する生徒のなかで私立指定校推薦希望者の特徴を明らかにしておく。分析にあたっては、W1（2023年6～7月）、W2（2024年5～6月）、W3（2025年5～7月）まで、つまり高校1年時から3年時までの回答をもとにしたデータを用いる。

分析手法としては、シンプルに私立指定校推薦と非私立指定校推薦を各観点からカイ二乗検定で検証し、有意な違いのあった項目について残差分析を行った。この手法を用いる利点は、各調査時点での回答を記述的に整理することで、時点間の共通性や差異を明らかにすることが出来る点である。これによって、指定校推薦希望の形成過程をデータから構築することが可能となる。今後、たとえば、インタビュー調査による指定校推薦の検証を行う場合、希望がどの時点で形成されたものなのか、本章の仮説に「当たり」をつけて検証することに繋がる。したがって、本章はあくまで仮説生成的な記述的分析を行っていく。

なお、本分析における私立指定校推薦希望者のサンプル数は100件程度と限定的であり、統計的検出力に一定の制約がある点には留意する必要がある。そのため、本章で確認された有意差や非有意の結果は、あくまで傾向として理解されるべきであり、指定校推薦一般の特徴として断定することはできない。

以下では（1）基本属性、（2）高校入学前、（3）学校生活、（4）「学校の先生」のイメージ、（5）学習状況、（6）大学進学で重視すること・親からの期待、（7）働く上で重視することの順に述べていく。

（1）基本属性

まず基本属性の違いについて見ていく。大きな違いとして、今回調査対象となった4年制大学進学者が多くを占める7校間で違いがあり、私立指定校が最も割合として小さいのは1.2%で、最も高いのは28.0%であった。対象校の特定に繋がる可能性があるため、これ以上の詳細を述べることは出来ないが、現実として鳥取県の進学校において、私立指定校の利用を検討している生徒がほとんどいない学校と、4人に1人以上の学校がある。これは利用を希望する生

徒数に差異があるのか、あるいは指定校の枠そのものが学校間で違いがあるのか、両者の可能性を示すが、このデータ上は判別できない。意外にも全容が明らかにされていないこの点は、本分析結果の解釈のみならず、広く学術的・社会的にも重要な点であろう。

次に文理の別（サンプルの小ささから体育を除外）では、文系が11.9%、理系は2.0%と圧倒的に文系において私立指定校が多い。さらに、性差については、女子（8.6%）の方が男子（6.7%）よりもやや多いが、文理選択の性差があるので、必ずしも女子が多いとは言えない。

また、W3時点での高校の成績（自己認識）については、各学校のなかにおける相対的な指標であるため、各校で統制して違いを検証した。その結果、7校中1校を除いて成績による違いはなかった。なお違いの見られた1校は、むしろ成績が相対的に低い生徒が指定校の利用を希望していた。

（2）高校入学前

次に、高校入学前の小学校時点での経験の差異を検証した。この項目はW1のみに用いられた表6—3の項目で回答は表6—4、表6—5の尺度で求めた。

この項目は文化資本に代表されるものであり、私立指定校・非私立指定校間では「⑦科学に関する本を読む」、「⑩スポーツクラブに行く」で違いが見られた。残差分析から前者では、非私立指定校の方が私立指定校に比べ読む頻度が多い傾向にあり、後者では一部違いが見られるものもあるが、それほど顕著な傾向は見られない。

表6—3 小学校時の経験の差（指定校推薦、非指定校推薦のカイ二乗検定結果）

項目	度数	カイ二乗値	有意水準	Cramer's V
①旅行に行く	1,293	$\chi^2(5) = 2.976$	n.s	
②音楽会、芸術展、演劇などの芸術鑑賞をする	1,292	$\chi^2(5) = 8.018$	n.s	
③博物館に行く	1,289	$\chi^2(5) = 2.811$	n.s	
④スポーツ観戦に行く	1,287	$\chi^2(5) = 8.954$	n.s	
⑤マンガや雑誌を読む	1,290	$\chi^2(5) = 7.179$	n.s	
⑥文学作品を読む	1,288	$\chi^2(5) = 9.242$	n.s	
⑦科学に関する本を読む	1,288	$\chi^2(5) = 16.435$	**	0.113
⑧ボランティアなどの社会的活動に参加する	1,288	$\chi^2(5) = 4.182$	n.s	
⑨野外で遊ぶ	1,292	$\chi^2(5) = 7.593$	n.s	
⑩スポーツクラブに行く	1,290	$\chi^2(5) = 12.542$	*	0.099
⑪ゲームをする	1,290	$\chi^2(5) = 7.646$	n.s	
⑫習い事に行く	1,290	$\chi^2(5) = 8.850$	n.s	

※ *** $p < .001$ 、** $p < .01$ 、* $p < .05$ 、n.s. = not significant（以下の表も同じ）

表6—4 「⑦科学に関する本を読む」残差分析結果

		ほとんどない	一年に1回	半年に1回	3ヵ月に1回	月に1回	週に1回以上	合計
非私立 指定校	度数	629	110	107	140	145	56	1,187
	%	53.0%	9.3%	9.0%	11.8%	12.2%	4.7%	100.0%
	調整済み標準化残差	-3.16	2.50	-0.30	-0.03	2.49	0.81	
私立 指定校	度数	70	2	10	12	4	3	101
	%	69.3%	2.0%	9.9%	11.9%	4.0%	3.0%	100.0%
	調整済み標準化残差	3.16	-2.50	0.30	0.03	-2.49	-0.81	

※調整済み標準化残差が5%水準以下で有意なものは太字で示す（以下の表も同じ）

表6—5 「⑩スポーツクラブに行く」の残差分析結果

		ほとんどない	一年に1回	半年に1回	3ヵ月に1回	月に1回	週に1回以上	合計
非私立 指定校	度数	375	18	15	20	60	701	1,189
	%	31.5%	1.5%	1.3%	1.7%	5.0%	59.0%	100.0%
	調整済み標準化残差	1.62	-1.82	-2.16	-1.63	0.48	-0.28	
私立 指定校	度数	24	4	4	4	4	61	101
	%	23.8%	4.0%	4.0%	4.0%	4.0%	60.4%	100.0%
	調整済み標準化残差	-1.62	1.82	2.16	1.63	-0.48	0.28	

(3) 学校生活

次に、学校生活について分析する。ここではW1～W3を通して21の共通項目（表6—6～表6—8）を表6—9の4件法で尋ねた回答を用いる。

各時点での差異を見ると、W1「⑭先生に褒められる」、「⑰先生に挨拶をする」といった先生に関する項目に差異があり、W2、W3の「⑫先生とプライベートな話をする」についても先生に関して差異が確認できる。表6—9の残差分析からは、いずれも程度の違いはあれ、私立指定校の方が、より肯定的な回答が見られる。

授業については、W2「①学校の授業を受けるのが好きだ」や「⑱授業がよくわかる」では全く当てはまらないが有意に高い側面もありつつ、W3「⑩授業中に自ら発言することが多い」において非私立指定校よりもやや高く、「⑯宿題をやらなかった」においては非私立指定校よりも低い（宿題をよりやっていた）。

これらの結果から、高校入学から3年生まで先生との距離が一貫して近い生徒像が浮かび上がり、他方で2年時には授業参加や理解度について相対的に否定的な側面もある。しかしながら、3年時になると、授業中の発言や宿題の完遂において非私立指定校よりも高くなる。このように、先生との距離感が近いとはいえ、時点に関わらず「③尊敬できる先生がいる」や「⑱先生と話をするのが好きだ」では非私立指定校とは違いはなかった。

表6—6 学校生活に関する項目のカイ二乗検定結果 (W1)

	度数	カイ二乗値	有意水準	Cramer's V
①学校の授業を受けるのが好きだ	1,173	$\chi^2(3) = 2.478$	n.s	
②友だちと過ごすのが楽しい	1,170	$\chi^2(3) = 3.283$	n.s	
③尊敬できる先生がいる	1,163	$\chi^2(3) = 2.868$	n.s	
④テストの成績が気になる	1,170	$\chi^2(3) = 0.852$	n.s	
⑤文化祭などの学校行事が楽しい	1,166	$\chi^2(3) = 3.353$	n.s	
⑥自分のクラスが好きだ	1,169	$\chi^2(3) = 4.200$	n.s	
⑦学校に行くのが楽しい	1,171	$\chi^2(3) = 1.885$	n.s	
⑧学校に行きたくないことがある	1,170	$\chi^2(3) = 0.092$	n.s	
⑨部活動に参加する	1,165	$\chi^2(3) = 2.981$	n.s	
⑩リーダー役割を担当することが多い	1,171	$\chi^2(3) = 5.780$	n.s	
W1 ⑪授業中に自ら発言することが多い	1,169	$\chi^2(3) = 1.555$	n.s	
⑫先生と勉強以外のプライベートな話をする	1,170	$\chi^2(3) = 5.092$	n.s	
⑬勉強で分からないところを先生に質問する	1,169	$\chi^2(3) = 1.702$	n.s	
⑭先生に褒められる	1,167	$\chi^2(3) = 9.176$	*	0.089
⑮頭髪、服装、所持品検査で生活指導を受けた	1,171	$\chi^2(3) = 7.177$	n.s	
⑯宿題をやらなかった	1,171	$\chi^2(3) = 3.423$	n.s	
⑰先生に挨拶をする	1,167	$\chi^2(3) = 12.656$	**	0.104
⑱先生と話をするのが好きだ	1,167	$\chi^2(3) = 7.563$	n.s	
⑲好きな授業がある	1,172	$\chi^2(3) = 4.279$	n.s	
⑳学校にいると疲れる	1,164	$\chi^2(3) = 0.501$	n.s	
㉑授業がよくわかる	1,169	$\chi^2(3) = 3.034$	n.s	

表6—7 学校生活に関する項目のカイ二乗検定結果 (W2)

	度数	カイ二乗値	有意水準	Cramer's V
①学校の授業を受けるのが好きだ	1,242	$\chi^2(3) = 9.476$	*	0.087
②友だちと過ごすのが楽しい	1,240	$\chi^2(3) = 2.473$	n.s	
③尊敬できる先生がいる	1,239	$\chi^2(3) = 4.367$	n.s	
④テストの成績が気になる	1,237	$\chi^2(3) = 3.406$	n.s	
⑤文化祭などの学校行事が楽しい	1,238	$\chi^2(3) = 7.377$	n.s	
⑥自分のクラスが好きだ	1,239	$\chi^2(3) = 2.636$	n.s	
⑦学校に行くのが楽しい	1,239	$\chi^2(3) = 0.600$	n.s	
⑧学校に行きたくないことがある	1,240	$\chi^2(3) = 0.443$	n.s	
⑨部活動に参加する	1,235	$\chi^2(3) = 0.382$	n.s	
⑩リーダー役割を担当することが多い	1,240	$\chi^2(3) = 0.194$	n.s	
W2 ⑪授業中に自ら発言することが多い	1,240	$\chi^2(3) = 2.904$	n.s	
⑫先生と勉強以外のプライベートな話をする	1,239	$\chi^2(3) = 12.004$	**	0.098
⑬勉強で分からないところを先生に質問する	1,240	$\chi^2(3) = 4.591$	n.s	
⑭先生に褒められる	1,240	$\chi^2(3) = 2.007$	n.s	
⑮頭髪、服装、所持品検査で生活指導を受けた	1,239	$\chi^2(3) = 0.703$	n.s	
⑯宿題をやらなかった	1,241	$\chi^2(3) = 1.973$	n.s	
⑰先生に挨拶をする	1,239	$\chi^2(3) = 7.025$	n.s	
⑱先生と話をするのが好きだ	1,238	$\chi^2(3) = 2.229$	n.s	
⑲好きな授業がある	1,239	$\chi^2(3) = 3.004$	n.s	
⑳学校にいると疲れる	1,240	$\chi^2(3) = 0.359$	n.s	
㉑授業がよくわかる	1,239	$\chi^2(3) = 8.857$	*	0.085

表6—8 学校生活に関する項目のカイ二乗検定結果 (W3)

	度数	カイ二乗値	有意水準	Cramer's V
①学校の授業を受けるのが好きだ	1,386	$\chi^2(3) = 5.820$	n.s	
②友だちと過ごすのが楽しい	1,385	$\chi^2(3) = 7.286$	n.s	
③尊敬できる先生がいる	1,384	$\chi^2(3) = 5.662$	n.s	
④テストの成績が気になる	1,384	$\chi^2(3) = 1.986$	n.s	
⑤文化祭などの学校行事が楽しい	1,385	$\chi^2(3) = 2.199$	n.s	
⑥自分のクラスが好きだ	1,383	$\chi^2(3) = 3.108$	n.s	
⑦学校に行くのが楽しい	1,382	$\chi^2(3) = 4.000$	n.s	
⑧学校に行きたくないことがある	1,382	$\chi^2(3) = 1.943$	n.s	
⑨部活動に参加する	1,379	$\chi^2(3) = 0.488$	n.s	
⑩リーダー役割を担当することが多い	1,383	$\chi^2(3) = 0.516$	n.s	
W3 ⑪授業中に自ら発言することが多い	1,380	$\chi^2(3) = 11.834$	**	0.093
⑫先生と勉強以外のプライベートな話をする	1,382	$\chi^2(3) = 8.825$	*	0.080
⑬勉強で分からないところを先生に質問する	1,381	$\chi^2(3) = 3.405$	n.s	
⑭先生に褒められる	1,380	$\chi^2(3) = 6.371$	n.s	
⑮頭髪、服装、所持品検査で生活指導を受けた	1,383	$\chi^2(3) = 1.065$	n.s	
⑯宿題をやらなかった	1,379	$\chi^2(3) = 11.811$	**	0.093
⑰先生に挨拶をする	1,381	$\chi^2(3) = 6.447$	n.s	
⑱先生と話をするのが好きだ	1,381	$\chi^2(3) = 5.197$	n.s	
⑲好きな授業がある	1,381	$\chi^2(3) = 0.928$	n.s	
⑳学校にいと疲れる	1,383	$\chi^2(3) = 2.168$	n.s	
㉑授業がよくわかる	1,380	$\chi^2(3) = 2.675$	n.s	

「⑦給料が高い仕事」であり、「⑩休みが多い仕事」と認識している。W2では両群で差異は見られないが、W3では「⑦給料が高い仕事」として再び私立指定校にとって肯定的に評価され、「⑫人気がある仕事」とより認識している。

前項で示した結果を併せて考えると、先生との距離が近いことと、教師の仕事をやりがいや働き方、社会的評価の点からより先生を肯定的に評価していることが関連している可能性がある。

表6—10 「学校の先生」のイメージに関するカイニ乗検定結果

	度数	カイニ乗値	有意水準	Cramer's V	
W1	①楽しい仕事	1,169	$\chi^2(3) = 9.626$	*	0.091
	②世の中のためになる仕事	1,171	$\chi^2(3) = 1.389$		
	③子どものためになる仕事	1,168	$\chi^2(3) = 3.547$		
	④やりたいことが自由にできる仕事	1,167	$\chi^2(3) = 10.416$	*	
	⑤みんなから尊敬される仕事	1,171	$\chi^2(3) = 10.613$	*	
	⑥苦勞が多い仕事	1,171	$\chi^2(3) = 2.231$		
	⑦給料が高い仕事	1,169	$\chi^2(3) = 15.732$	**	
	⑧忙しい仕事	1,172	$\chi^2(3) = 0.284$		
	⑨責任が重い仕事	1,172	$\chi^2(3) = 2.011$		
	⑩休みが多い仕事	1,168	$\chi^2(3) = 8.563$	*	
	⑪高い学力を有する人が就く仕事	1,169	$\chi^2(3) = 5.723$		
	⑫人気がある仕事	1,167	$\chi^2(3) = 7.597$		
	⑬子どもの人生に関わることのできる仕事	1,170	$\chi^2(3) = 1.882$		
W2	①楽しい仕事	1,243	$\chi^2(3) = 1.726$		0.086
	②世の中のためになる仕事	1,243	$\chi^2(3) = 4.563$		
	③子どものためになる仕事	1,244	$\chi^2(3) = 0.352$		
	④やりたいことが自由にできる仕事	1,241	$\chi^2(3) = 1.194$		
	⑤みんなから尊敬される仕事	1,244	$\chi^2(3) = 0.665$		
	⑥苦勞が多い仕事	1,242	$\chi^2(3) = 4.712$		
	⑦給料が高い仕事	1,238	$\chi^2(3) = 4.410$		
	⑧忙しい仕事	1,238	$\chi^2(3) = 1.527$		
	⑨責任が重い仕事	1,240	$\chi^2(3) = 1.022$		
	⑩休みが多い仕事	1,240	$\chi^2(3) = 6.222$		
	⑪高い学力を有する人が就く仕事	1,241	$\chi^2(3) = 2.289$		
	⑫人気がある仕事	1,241	$\chi^2(3) = 1.567$		
	⑬子どもの人生に関わることのできる仕事	1,241	$\chi^2(3) = 7.565$		
W3	①楽しい仕事	1,379	$\chi^2(3) = 3.601$		0.077
	②世の中のためになる仕事	1,378	$\chi^2(3) = 3.601$		
	③子どものためになる仕事	1,378	$\chi^2(3) = 0.399$		
	④やりたいことが自由にできる仕事	1,378	$\chi^2(3) = 5.897$		
	⑤みんなから尊敬される仕事	1,381	$\chi^2(3) = 4.359$		
	⑥苦勞が多い仕事	1,379	$\chi^2(3) = 1.494$		
	⑦給料が高い仕事	1,381	$\chi^2(3) = 8.252$	*	
	⑧忙しい仕事	1,380	$\chi^2(3) = 1.857$		
	⑨責任が重い仕事	1,379	$\chi^2(3) = 0.208$		
	⑩休みが多い仕事	1,375	$\chi^2(3) = 6.910$		
	⑪高い学力を有する人が就く仕事	1,378	$\chi^2(3) = 6.704$		
	⑫人気がある仕事	1,378	$\chi^2(3) = 24.974$	***	
	⑬子どもの人生に関わることのできる仕事	1,377	$\chi^2(3) = 1.521$		

表6—11 「学校の先生」に関する項目（一部）の残差分析結果

		全く あてはまらない	あまり あてはまらない	まあ あてはまる	とても あてはまる	合計	
W1①楽しい 仕事	非私立 指定校	度数	107	344	503	123	1,077
		%	9.9%	31.9%	46.7%	11.4%	100.0%
		調整済み標準化残差	-0.29	0.08	2.00	-2.90	
	私立 指定校	度数	10	29	33	20	92
		%	10.9%	31.5%	35.9%	21.7%	100.0%
		調整済み標準化残差	0.29	-0.08	-2.00	2.90	
W1④やりたい ことができる 仕事	非私立 指定校	度数	228	601	185	61	1,075
		%	21.2%	55.9%	17.2%	5.7%	100.0%
		調整済み標準化残差	0.37	1.3	-0.04	-3.19	
	私立 指定校	度数	18	45	16	13	92
		%	19.6%	48.9%	17.4%	14.1%	100.0%
		調整済み標準化残差	-0.37	-1.3	0.04	3.19	
W1⑤みんな から尊敬さ れる仕事	非私立 指定校	度数	46	260	514	259	1,079
		%	4.3%	24.1%	47.6%	24.0%	100.0%
		調整済み標準化残差	0.46	0.51	2.17	-3.21	
	私立 指定校	度数	3	20	33	36	92
		%	3.3%	21.7%	35.9%	39.1%	100.0%
		調整済み標準化残差	-0.46	-0.51	-2.17	3.21	
W1⑦給料が 高い仕事	非私立 指定校	度数	118	426	429	104	1,077
		%	11.0%	39.6%	39.8%	9.7%	100.0%
		調整済み標準化残差	0.67	1.52	0.54	-3.92	
	私立 指定校	度数	8	29	34	21	92
		%	8.7%	31.5%	37.0%	22.8%	100.0%
		調整済み標準化残差	-0.67	-1.52	-0.54	3.92	
W1⑩休みが 多い仕事	非私立 指定校	度数	438	533	71	34	1,076
		%	40.7%	49.5%	6.6%	3.2%	100.0%
		調整済み標準化残差	1.11	0.31	-0.77	-2.74	
	私立 指定校	度数	32	44	8	8	92
		%	34.8%	47.8%	8.7%	8.7%	100.0%
		調整済み標準化残差	-1.11	-0.31	0.77	2.74	
W3⑦給料が 高い仕事	非私立 指定校	度数	125	494	519	137	1,275
		%	9.8%	38.7%	40.7%	10.7%	100.0%
		調整済み標準化残差	0.76	1.74	-0.54	-2.53	
	私立 指定校	度数	8	32	46	20	106
		%	7.5%	30.2%	43.4%	18.9%	100.0%
		調整済み標準化残差	-0.76	-1.74	0.54	2.53	
W3⑩人気 がある仕事	非私立 指定校	度数	231	617	339	86	1,273
		%	18.1%	48.5%	26.6%	6.8%	100.0%
		調整済み標準化残差	2.24	2.42	-2.32	-3.87	
	私立 指定校	度数	10	38	39	18	105
		%	9.5%	36.2%	37.1%	17.1%	100.0%
		調整済み標準化残差	-2.24	-2.42	2.32	3.87	

(5) 学習状況

学校生活の実態が明瞭になったところで、普段の学習状況はどうであろうか。ここではW1～W3にかけて一貫して尋ねていた平日の学習時間（表6—12）と通塾の有無（表6—13）について述べる。

まず学習時間は、非私立指定校と比較して明らかに短い。時点に関わらず「1時間以内」の生徒が多く、3年時の「3時間以上」では顕著に違いがある。W3の調査が5～7月とまだ校内選考が進んでいないと考えられる時期に、明らかに非私立指定校と比べ学習時間が短いことの意味は今後より深掘りしていくに値する結果である。また、この3年時の学習時間の差は、

同時点での通塾率の差（表6—13）とも関連があると推察される。

表6—12 平日1日あたりの授業以外の学習時間のカイ二乗検定・残差分析結果

		1時間以内	1～2時間	2～3時間	3時間以上	合計	カイ二乗値 Cramer's V
W1	非私立指定校	度数	263	514	244	63	1,084
	%	24.3%	47.4%	22.5%	5.8%	100.0%	
	調整済み標準化残差	-3.00	0.31	1.47	2.40		$\chi^2(3) = 13.917^{**}$
	私立指定校	度数	36	43	15	0	94
%	38.3%	45.7%	16.0%	0.0%	100.0%		
調整済み標準化残差	3.00	-0.31	-1.47	-2.40			
W2	非私立指定校	度数	376	529	190	62	1,157
	%	32.5%	45.7%	16.4%	5.4%	100.0%	
	調整済み標準化残差	-2.74	0.68	2.05	0.93		$\chi^2(3) = 9.622^*$
	私立指定校	度数	44	40	8	3	95
%	46.3%	42.1%	8.4%	3.2%	100.0%		
調整済み標準化残差	2.74	-0.68	-2.05	-0.93			
W3	非私立指定校	度数	197	358	401	331	1,287
	%	15.3%	27.8%	31.2%	25.7%	100.0%	
	調整済み標準化残差	-4.89	-3.32	3.31	4.23		$\chi^2(3) = 48.923^{***}$
	私立指定校	度数	36	46	17	8	107
%	33.6%	43.0%	15.9%	7.5%	100.0%		
調整済み標準化残差	4.89	3.32	-3.31	-4.23			

表6—13 通塾に関するカイ二乗検定・残差分析結果

		W1			W2			W3		
		通っていない	通っている	合計	通っていない	通っている	合計	通っていない	通っている	合計
非私立指定校	度数	644	439	1,083	652	495	1,147	623	664	1,287
	%	59.5%	40.5%	100.0%	56.8%	43.2%	100.0%	48.4%	51.6%	100.0%
	調整済み標準化残差	-1.23	1.23		-0.71	0.71		-2.93	2.93	
私立指定校	度数	62	32	94	57	37	94	67	39	106
	%	66.0%	34.0%	100.0%	60.6%	39.4%	100.0%	63.2%	36.8%	100.0%
	調整済み標準化残差	1.23	-1.23		0.71	-0.71		2.93	-2.93	
カイ二乗値	$\chi^2(1) = 1.519$			$\chi^2(1) = 0.511$			$\chi^2(1) = 8.582^{**}$			
Cramer's V	0.036			0.020			0.078			

(6) 大学進学で重視すること・親からの期待

これまでの学校生活や学習状況が見えてきたなかで、では大学進学を選択にあたって私立指定校はどのような点に特徴があるのだろうか。まず、大学進学で重視すること、そして親からの期待について見ていく。大学進学で重視することは、これまでと同様に、W1～W3において同一の16項目（表6—14）を4件法（表6—15）で尋ね、得られたデータを分析する。

まず全体の傾向としては、1年時に私立指定校は非私立指定校と比較し「⑫大学都市にある」ことを重視していること以外は、1～2年時に非私立指定校と違いは見られない。3年時になると、「⑥伝統や知名度がある」、「⑦校風やキャンパスの雰囲気がよい」、「⑧就職のための支援が充実している」、「⑭授業料が安い」で違いが見られる。これらは大学での学びという観点（「③専攻したい学問分野がある」）よりかは、より外的な観点である。違いの実態としては、まず「⑭授業料が安い」ことはそれほど重視していない。この時点で授業料が相対的に低い国公立よりも私立に進学することを私立指定校は想定している。他方、⑥～⑧についてはいずれも私立

指定校の方がより重視していた。

これらの結果を整理すれば、もともと大都市への志向があり、進路選択の差し迫った時期にネームバリューがあり、施設や就職支援が充実した点を重視していたと言えよう。

次に、親からの期待について見る。これは表6—16の10項目をW1からW3まで同一項目を表6—17の4件法で尋ねた。全体的には非私立指定校と大きな違いのある項目は少なく、特に1～2年時は有意なものはなかった。ただし、3年時には、「①早く就職すること」、「⑧知名度の高い学校に進学すること」で有意な違いがあった。残差分析による差異を見ると、私立指定校はより早く就職すること、そして知名度の高い学校に進学することを期待されている。先程の生徒自身が大学進学にあたって重視する項目と親からの期待が重複する結果となった。厳密な因果パスをここでは検証しないが、直感的には、親からの期待→当人の志向が想定される。もしこの因果パスが成立するのであれば、私立指定校の希望については大学のブランド価値や就職支援を重視する親の存在が影響していることが示唆される。

(7) 働く上で重視すること

分析の最後は、働く上で重視することである。ここでは、表6—17の9項目(W3のみ11項目)を表6—18の4件法で尋ねたデータを用いる。前項では大学教育に就職に繋がる機能を期待しているわけだが、就労についてどのような意識をもっているのだろうか。

全体的な傾向では、いずれの時点においても「⑨保護者の理解が得られること」で差異が生じている。具体的な差異を残差分析から見ると、私立指定校は、非私立指定校と比べ、保護者の理解を得ることをより重要とするというよりかは、重要ではないとは思えないといった意識にある。この非私立指定校と比較した場合の回答分布の差異は、実際の保護者との距離感も推論させうるものであり、親子関係の依存や従属といった関係よりも適度なコミュニケーションが形成されている(断絶ではない)と考えられる。

その他の項目では、1年時に「⑧世間の評判が良いこと」をより重視し、3年時には「⑤働く時間や日数が短いこと」や「⑥仕事が楽なこと」を重要ではないと思わないわけではない。つまり、仕事は適度にと考えているようだ。

表6-14 大学進学で重視することのカイ二乗検定結果

	度数	カイ二乗値	有意水準	Cramer's V	
W1	①入試の難易度があっている	1,069	$\chi^2(3) = 1.095$	n.s	
	②入試科目・選抜方法があっている	1,069	$\chi^2(3) = 3.234$	n.s	
	③専攻したい学問分野がある	1,073	$\chi^2(3) = 1.542$	n.s	
	④有名な教員、優秀な教員がいる	1,063	$\chi^2(3) = 0.995$	n.s	
	⑤総合大学である	1,060	$\chi^2(3) = 2.929$	n.s	
	⑥伝統や知名度がある	1,068	$\chi^2(3) = 5.355$	n.s	
	⑦校風やキャンパスの雰囲気が良い	1,071	$\chi^2(3) = 5.450$	n.s	
	⑧就職のための支援が充実している	1,071	$\chi^2(3) = 1.774$	n.s	
	⑨大学院が設置されている	1,062	$\chi^2(3) = 4.562$	n.s	
	⑩施設・設備が良い	1,066	$\chi^2(3) = 0.230$	n.s	
	⑪自宅から通える	1,063	$\chi^2(3) = 0.520$	n.s	
	⑫大都市にある	1,068	$\chi^2(3) = 13.309$	**	0.112
	⑬自分の入りたいクラブ・サークルがある	1,065	$\chi^2(3) = 2.103$	n.s	
	⑭授業料が安い	1,067	$\chi^2(3) = 1.000$	n.s	
	⑮親元を離れられる	1,066	$\chi^2(3) = 1.187$	n.s	
	⑯資格・免許がとれる	1,064	$\chi^2(3) = 2.862$	n.s	
W2	①入試の難易度があっている	1,197	$\chi^2(3) = 4.051$	n.s	
	②入試科目・選抜方法があっている	1,196	$\chi^2(3) = 5.253$	n.s	
	③専攻したい学問分野がある	1,195	$\chi^2(3) = 0.791$	n.s	
	④有名な教員、優秀な教員がいる	1,193	$\chi^2(3) = 3.511$	n.s	
	⑤総合大学である	1,195	$\chi^2(3) = 1.867$	n.s	
	⑥伝統や知名度がある	1,191	$\chi^2(3) = 2.906$	n.s	
	⑦校風やキャンパスの雰囲気が良い	1,197	$\chi^2(3) = 1.807$	n.s	
	⑧就職のための支援が充実している	1,196	$\chi^2(3) = 1.525$	n.s	
	⑨大学院が設置されている	1,193	$\chi^2(3) = 2.308$	n.s	
	⑩施設・設備が良い	1,195	$\chi^2(3) = 1.767$	n.s	
	⑪自宅から通える	1,193	$\chi^2(3) = 3.194$	n.s	
	⑫大都市にある	1,191	$\chi^2(3) = 6.295$	n.s	
	⑬自分の入りたいクラブ・サークルがある	1,191	$\chi^2(3) = 7.076$	n.s	
	⑭授業料が安い	1,194	$\chi^2(3) = 0.760$	n.s	
	⑮親元を離れられる	1,192	$\chi^2(3) = 2.981$	n.s	
	⑯資格・免許がとれる	1,188	$\chi^2(3) = 0.301$	n.s	
W3	①入試の難易度があっている	1,389	$\chi^2(3) = 3.110$	n.s	
	②入試科目・選抜方法があっている	1,387	$\chi^2(3) = 3.947$	n.s	
	③専攻したい学問分野がある	1,390	$\chi^2(3) = 0.636$	n.s	
	④有名な教員、優秀な教員がいる	1,386	$\chi^2(3) = 0.881$	n.s	
	⑤総合大学である	1,386	$\chi^2(3) = 2.837$	n.s	
	⑥伝統や知名度がある	1,385	$\chi^2(3) = 14.585$	**	0.103
	⑦校風やキャンパスの雰囲気が良い	1,387	$\chi^2(3) = 8.811$	*	0.080
	⑧就職のための支援が充実している	1,387	$\chi^2(3) = 17.954$	***	0.114
	⑨大学院が設置されている	1,384	$\chi^2(3) = 5.736$	n.s	
	⑩施設・設備が良い	1,386	$\chi^2(3) = 3.537$	n.s	
	⑪自宅から通える	1,388	$\chi^2(3) = 0.316$	n.s	
	⑫大都市にある	1,384	$\chi^2(3) = 4.434$	n.s	
	⑬自分の入りたいクラブ・サークルがある	1,387	$\chi^2(3) = 2.023$	n.s	
	⑭授業料が安い	1,384	$\chi^2(3) = 9.769$	*	0.084
	⑮親元を離れられる	1,384	$\chi^2(3) = 2.836$	n.s	
	⑯資格・免許がとれる	1,388	$\chi^2(3) = 3.292$	n.s	

表6—15 大学進学で重視すること（一部）の残差分析結果

			全く あてはまらない	あまり あてはまらない	まあ あてはまる	とても あてはまる	合計
W1 [⑫大 都市にあ る]	非私立 指定校	度数	177	362	311	137	987
		%	17.9%	36.7%	31.5%	13.9%	100.0%
		調整済み標準化残差	1.56	1.05	0.35	-3.52	
	私立指定校	度数	9	25	24	23	81
		%	11.1%	30.9%	29.6%	28.4%	100.0%
		調整済み標準化残差	-1.56	-1.05	-0.35	3.52	
W3 [⑥伝 統や知名 度があ る]	非私立 指定校	度数	83	327	569	301	1,280
		%	6.5%	25.5%	44.5%	23.5%	100.0%
		調整済み標準化残差	1.88	0.61	1.64	-3.55	
	私立指定校	度数	2	24	38	41	105
		%	1.9%	22.9%	36.2%	39.0%	100.0%
		調整済み標準化残差	-1.88	-0.61	-1.64	3.55	
W3 [⑦校 風やキャン パスの 雰囲気 がよい]	非私立 指定校	度数	22	78	530	652	1,282
		%	1.7%	6.1%	41.3%	50.9%	100.0%
		調整済み標準化残差	0.59	1.77	1.80	-2.74	
	私立指定校	度数	1	2	34	68	105
		%	1.0%	1.9%	32.4%	64.8%	100.0%
		調整済み標準化残差	-0.59	-1.77	-1.80	2.74	
W3 [⑧就 職のため の支援が 充実して いる]	非私立 指定校	度数	20	76	500	686	1,282
		%	1.6%	5.9%	39.0%	53.5%	100.0%
		調整済み標準化残差	1.29	1.72	3.09	-4.11	
	私立指定校	度数	0	2	25	78	105
		%	0.0%	1.9%	23.8%	74.3%	100.0%
		調整済み標準化残差	-1.29	-1.72	-3.09	4.11	
W3 [⑭授 業料が安 い]	非私立 指定校	度数	90	258	583	347	1,278
		%	7.0%	20.2%	45.6%	27.2%	100.0%
		調整済み標準化残差	-1.97	-1.98	1.00	1.86	
	私立指定校	度数	13	30	43	20	106
		%	12.3%	28.3%	40.6%	18.9%	100.0%
		調整済み標準化残差	1.97	1.98	-1.00	-1.86	

表6—16 親から期待されていることに関するカイ二乗検定結果

	度数	カイ二乗値	有意水準	Cramer's V		
W1	①早く就職すること	1,147	$\chi^2(3) = 6.417$	n.s		
	②現役で合格すること	1,153	$\chi^2(3) = 1.242$	n.s		
	③偏差値の高い学校に進学すること	1,146	$\chi^2(3) = 1.792$	n.s		
	④あなたの学びたい学部・学科に進学すること	1,157	$\chi^2(3) = 1.325$	n.s		
	⑤自宅から通える学校に進学すること	1,147	$\chi^2(3) = 1.515$	n.s		
	⑥奨学金を利用すること	1,125	$\chi^2(3) = 2.414$	n.s		
	⑦就職に繋がる学校に進学すること	1,146	$\chi^2(3) = 0.466$	n.s		
	⑧知名度の高い学校に進学すること	1,142	$\chi^2(3) = 4.967$	n.s		
	⑨将来的に、同居もしくは近い地域に居住すること	1,145	$\chi^2(3) = 6.842$	n.s		
	⑩安定した仕事に就くこと	1,146	$\chi^2(3) = 5.985$	n.s		
W2	①早く就職すること	1,230	$\chi^2(3) = 4.270$	n.s		
	②現役で合格すること	1,236	$\chi^2(3) = 0.180$	n.s		
	③偏差値の高い学校に進学すること	1,231	$\chi^2(3) = 1.608$	n.s		
	④あなたの学びたい学部・学科に進学すること	1,238	$\chi^2(3) = 6.739$	n.s		
	⑤自宅から通える学校に進学すること	1,231	$\chi^2(3) = 1.823$	n.s		
	⑥奨学金を利用すること	1,226	$\chi^2(3) = 2.748$	n.s		
	⑦就職に繋がる学校に進学すること	1,234	$\chi^2(3) = 4.247$	n.s		
	⑧知名度の高い学校に進学すること	1,232	$\chi^2(3) = 5.345$	n.s		
	⑨将来的に、同居もしくは近い地域に居住すること	1,227	$\chi^2(3) = 0.411$	n.s		
	⑩安定した仕事に就くこと	1,233	$\chi^2(3) = 2.574$	n.s		
W3	①早く就職すること	1,374	$\chi^2(3) = 13.768$	**	0.100	
	②現役で合格すること	1,376	$\chi^2(3) = 3.055$	n.s		
	③偏差値の高い学校に進学すること	1,377	$\chi^2(3) = 2.148$	n.s		
	④あなたの学びたい学部・学科に進学すること	1,377	$\chi^2(3) = 2.454$	n.s		
	⑤自宅から通える学校に進学すること	1,378	$\chi^2(3) = 2.792$	n.s		
	⑥奨学金を利用すること	1,374	$\chi^2(3) = 4.488$	n.s		
	⑦就職に繋がる学校に進学すること	1,374	$\chi^2(3) = 0.270$	n.s		
	⑧知名度の高い学校に進学すること	1,377	$\chi^2(3) = 20.874$	***		0.123
	⑨将来的に、同居もしくは近い地域に居住すること	1,376	$\chi^2(3) = 2.047$	n.s		
	⑩安定した仕事に就くこと	1,375	$\chi^2(3) = 1.267$	n.s		

表6—17 親から期待されていること（一部）に関する残差分析結果

		全く期待 されていない	あまり期待 されていない	まあ期待 されている	とても期待 されている	合計
W3 [①早く就職すること]	非私立指定校	度数 160	517	478	113	1,268
		% 12.6%	40.8%	37.7%	8.9%	100.0%
		調整済み標準化残差 0.96	2.71	-1.73	-2.72	
	私立指定校	度数 10	29	49	18	106
	% 9.4%	27.4%	46.2%	17.0%	100.0%	
	調整済み標準化残差 -0.96	-2.71	1.73	2.72		
W3 [⑧知名度の高い学校に進学すること]	非私立指定校	度数 230	494	423	125	1,272
		% 18.1%	38.8%	33.3%	9.8%	100.0%
		調整済み標準化残差 1.22	3.44	-2.59	-2.96	
	私立指定校	度数 14	23	48	20	105
	% 13.3%	21.9%	45.7%	19.0%	100.0%	
	調整済み標準化残差 -1.22	-3.44	2.59	2.96		

表6—18 働く上で重視することに関するカイ二乗検定結果

	度数	カイ二乗値	有意水準	Cramer's V	
W1	①収入が多いこと	1,175	$\chi^2(3) = 1.512$	n.s	
	②自分の能力が活かせること	1,175	$\chi^2(3) = 1.994$	n.s	
	③安定していること	1,174	$\chi^2(3) = 0.881$	n.s	
	④社会に役立つこと	1,170	$\chi^2(3) = 0.648$	n.s	
	⑤働く時間や日数が短いこと	1,169	$\chi^2(3) = 6.267$	n.s	
	⑥仕事が楽なこと	1,167	$\chi^2(3) = 3.448$	n.s	
	⑦将来性が高いこと	1,170	$\chi^2(3) = 1.992$	n.s	
	⑧世間の評判が良いこと	1,167	$\chi^2(3) = 8.538$	*	0.086
	⑨保護者の理解が得られること	1,165	$\chi^2(3) = 10.817$	*	0.096
W2	①収入が多いこと	1,249	$\chi^2(3) = 1.139$	n.s	
	②自分の能力が活かせること	1,248	$\chi^2(3) = 0.650$	n.s	
	③安定していること	1,248	$\chi^2(3) = 6.622$	n.s	
	④社会に役立つこと	1,247	$\chi^2(3) = 6.709$	n.s	
	⑤働く時間や日数が短いこと	1,245	$\chi^2(3) = 2.867$	n.s	
	⑥仕事が楽なこと	1,247	$\chi^2(3) = 3.153$	n.s	
	⑦将来性が高いこと	1,247	$\chi^2(3) = 1.369$	n.s	
	⑧世間の評判が良いこと	1,246	$\chi^2(3) = 3.482$	n.s	
	⑨保護者の理解が得られること	1,244	$\chi^2(3) = 10.018$	*	0.090
W3	①収入が多いこと	1,386	$\chi^2(3) = 1.652$	n.s	
	②自分の能力が活かせること	1,381	$\chi^2(3) = 5.978$	n.s	
	③安定していること	1,387	$\chi^2(3) = 2.716$	n.s	
	④社会に役立つこと	1,380	$\chi^2(3) = 2.093$	n.s	
	⑤働く時間や日数が短いこと	1,380	$\chi^2(3) = 8.333$	*	0.078
	⑥仕事が楽なこと	1,377	$\chi^2(3) = 8.485$	*	0.078
	⑦将来性が高いこと	1,376	$\chi^2(3) = 2.216$	n.s	
	⑧世間の評判が良いこと	1,376	$\chi^2(3) = 6.431$	n.s	
	⑨保護者の理解が得られること	1,378	$\chi^2(3) = 11.234$	*	0.090
	⑩仕事と育児を両立できること	1,376	$\chi^2(3) = 2.824$	n.s	
	⑪定年まで働けること	1,375	$\chi^2(3) = 3.513$	n.s	

表6—19 働く上で重視すること（一部）に関する残差分析結果

			全く 重要でない	あまり 重要でない	やや重要だ	とても重要だ	合計
W1[⑧世 間の評判 が良いこ と]	非私立 指定校	度数	64	224	474	313	1,075
		%	6.0%	20.8%	44.1%	29.1%	100.0%
	私立 指定校	調整済み標準化残差	0.63	2.55	-0.49	-2.01	
		度数	4	9	43	36	92
		%	4.3%	9.8%	46.7%	39.1%	100.0%
		調整済み標準化残差	-0.63	-2.55	0.49	2.01	
W1[⑨保 護者の理 解が得ら れるこ と]	非私立 指定校	度数	97	226	405	346	1,074
		%	9.0%	21.0%	37.7%	32.2%	100.0%
	私立 指定校	調整済み標準化残差	1.88	2.29	-2.21	-0.79	
		度数	3	10	45	33	91
		%	3.3%	11.0%	49.5%	36.3%	100.0%
		調整済み標準化残差	-1.88	-2.29	2.21	0.79	
W2[⑨保 護者の理 解が得ら れるこ と]	非私立 指定校	度数	88	238	476	347	1,149
		%	7.7%	20.7%	41.4%	30.2%	100.0%
	私立 指定校	調整済み標準化残差	2.01	2.14	-1.73	-1.14	
		度数	2	11	48	34	95
		%	2.1%	11.6%	50.5%	35.8%	100.0%
		調整済み標準化残差	-2.01	-2.14	1.73	1.14	
W3[⑤働 く時間や 日数が短 いこと]	非私立 指定校	度数	72	364	556	282	1,274
		%	5.7%	28.6%	43.6%	22.1%	100.0%
	私立 指定校	調整済み標準化残差	2.51	0.06	-1.83	0.78	
		度数	0	30	56	20	106
		%	0.0%	28.3%	52.8%	18.9%	100.0%
		調整済み標準化残差	-2.51	-0.06	1.83	-0.78	
W3[⑥仕 事が楽な こと]	非私立 指定校	度数	111	522	478	162	1,273
		%	8.7%	41.0%	37.5%	12.7%	100.0%
	私立 指定校	調整済み標準化残差	2.43	0.7	-2.12	0.07	
		度数	2	39	50	13	104
		%	1.9%	37.5%	48.1%	12.5%	100.0%
		調整済み標準化残差	-2.43	-0.7	2.12	-0.07	
W3[⑨保 護者の理 解が得ら れるこ と]	非私立 指定校	度数	121	291	517	345	1,274
		%	9.5%	22.8%	40.6%	27.1%	100.0%
	私立 指定校	調整済み標準化残差	2.95	1.07	-1.68	-1.02	
		度数	1	19	51	33	104
		%	1.0%	18.3%	49.0%	31.7%	100.0%
		調整済み標準化残差	-2.95	-1.07	1.68	1.02	

4. まとめと今後の課題

本章は、W3までのデータを用いて、私立大学の指定校推薦を希望する生徒の特徴を明らかにすることを目的とした。

これまで、私立指定校推薦については、それほど研究蓄積がなく、本稿ではW3時点で取得したデータをもとに、高校3年間の傾向を見てきた。今回の鳥取県の進学校を対象にした調査では、全国的な推計よりもやや低い7.7%の生徒を抽出したことに留意する必要があるものの、本稿の新規的な点は、私立指定校推薦を希望する生徒は、それ以外の生徒と比較して、高校生活3年間を通して教師や保護者との距離感が近いことを仮説として提示した点にある。特に教師については生徒自身がポジティブなイメージをもっている点に特徴がある。この本人を取り

巻く関係性が、どのように形成されていくのかを把握することは分析上の限界があり、今後インタビュー調査による高校生活全体（あるいはそれ以前）を通した語りを得る必要がある。

他方、大学教育や学びという観点から見た時に、分析で得た知見は今後より丁寧に検証が必要になる。特に近年の学校推薦型入試が、大学・学部等のアドミッション・ポリシーに対応する志願者生徒の学習歴や活動歴を踏まえた学力の三要素に関する評価を求めているように、学びという観点から指定校推薦という入試選抜制度が方法として活用されることが望まれている。大学進学にあたって知名度や立地、施設といった外形を入口としつつも、その中身である大学教育、学問にも注目していくことが望まれる。

とはいえ、以上の結果は、第一に、私立指定校のサンプル数が100件程度であること、第二に、学校間で私立指定校推薦希望者の割合に差異があること、文系が多く、同時に女子が多いことなど特徴を加味していないことに留意する必要がある。これらの他要因を考慮した分析を今後も視野に入れたい。本稿は、高校3年間のパネルデータの強みを活かし、変数ごとの記述的な分析を行うことで、複数の仮説を提示するに留まる。

【文献】

文部科学省，2025a，「令和7年度国公立大学入学者選抜実施状況」（2026年2月10日取得，https://www.mext.go.jp/content/20251126-mxt_daigakuc02-000045982_01.pdf）。

———，2025b，「令和8年度入学者選抜について」（2026年2月10日取得，https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1412102_00011.htm）。

———，2025c，「令和8年度大学入学者選抜実施要項について（通知）」（2026年2月10日取得，https://www.mext.go.jp/content/20250701-daigakuc_000010813_1.pdf）。

リバルタス・コンサルティング，2024，「令和5年度文部科学省委託調査 大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究調査報告書」（2026年2月10日取得，https://www.mext.go.jp/content/20240319-mxt_daigakuc01-000034622_1.pdf）。

早稲田大学入学センターホームページ，（2026年2月10日取得，<https://www.waseda.jp/inst/admission/undergraduate/system/designated/>）。